

作業グループ会議（2/12 実施）の議論からあぶり出された論点

5. 自治の仕組み

(1) 地域コミュニティ

- ・ 以下のような内容になるのではないのでしょうか？
- ①地域コミュニティについての基本的な考え方（「こうありたい」という理念的なこと）
 - ・ 市民の主体性、自由意思の尊重（市民一人ひとりが...）
 - ・ 地域の自律性の尊重（地域のことは地域で...）
 - ・ 市民、地域の多様性の尊重とお互いの認め合い
 - ・ 地域の中でよく話し合い、合意（地域としての意思）をつくる
 - ・ 課題解決のために自ら行動する
- ②上記①を実現するための、小中学校区を単位とする地域の自治の仕組み
（例：市の歴史・実情に合わせて、焼津地区は中学校区、大井川町地区は小学校区）
- ③地域コミュニティへの参加を促進する仕組み・取り組み
- ④地域コミュニティへの行政の関わり
 - ・ 市民の主体性、地域の自律性を尊重することが基本
 - ・ 地域コミュニティの充実や発展のための政策を進める
（例：将来的な権限や財源の委譲、地域への職員の派遣など）

(2) 情報

- ・ 行政情報、議会情報については、積極的な市民との情報共有が基本。
市民が考え、判断できるためのものであること。
- ・ 市民の個人情報については、個人情報保護条例の遵守が基本。
（行き過ぎによる不利益が起こらないようになど、使いながら改善していく）
- ・ 市民情報については、どのように考えるか？
→市民間の情報共有ということならば、(1)地域コミュニティや(5)協働に活かす？

(3) 参加

- ・ 参加の仕組みについての基本的な考え方は、以下でよいのでしょうか？
- ①参加しやすい環境をつくる（一人でも多くの市民が参加できるように。併せて多様な参加を促進する工夫）
- ②参加の質を充実させる（市民の参加が市政やまちづくりに活かされる）
- ③市民投票…市民の情報共有(学習)と多様な人々の対話による合意形成の徹底が基本（「焼津市の民主主義」の考え方）。市民投票を規定する場合には、そのことを明記する。それでも方向が見えないが、白黒つけなければならない場合に市民全員の意見を確認する。

(4) 協働

- ・ 以下のような内容になるのではないのでしょうか？
 - ①協働の基本的な考え方を整理（「協働」とは？）
 - ②市民・行政の人材育成、協働の文化（市民の文化、行政の文化）をつくる
 - ③様々な具体的課題の解決（実践）を通じて、市民・行政が互いに成長していく
- ※協働の実践のための「場」と「機会」を誰がどのようにつくっていくか？
（例：協働の実践の「場」としての市民活動センターの要・不要や、あり方など）

(5) 情報共有・参加・協働促進のための場

- ・他の項目(1)～(4)に折り込み、充実させるために活用してはどうか？
「場」とはどのような機能なのか、そこを明確にする必要がある。

(6) 評価

※資料 7 ページ右欄の「事務局追記」をもとに検討

(7) 子どもの育成、子育て支援

(8) 人にやさしいまちづくり

(9) 企業・産業 →「市民」の中で書くか？「なりわいあつての自治」としてより重要視するか？

(10) 『Love 焼津』

(11) 焼津ブランド

(12) 平和の発信 →「焼津らしさ」としてどう扱う？

(13) 幸福度を高めるまちづくり

(15) その他、焼津の独自性を高めるような項目や内容

※(7)～(13)と(15)については、最初の方の「目指すまちの姿」など他の項目と合わせて整理する内容と、独立した項目として扱う内容を仕分ける必要あり。

(14) 広域的なまちづくり

※合併トラウマのようなものからいかに脱し、今後の地方自治を取り巻く大変な状況を乗り越えていくために、いかに周辺自治体と連携・協力していくかという視点で検討を。
(ファシリテーターより問題提起)

6. 条例を活かすための仕組み

(1) 条例の実効性の確保

- ・推進のための組織の必要性（その場合の機能は？評価の機能も担うか？）
- ・長期の成果を想定しているため、短期の評価は難しいのではないか？

(2) 条例の見直し

- ・見直し規定は定期か随時か、また両方とするか？
- ・推進組織(1)を設置した場合、見直しに関与することをあらかじめ規定するか？

7. 条例の名称・愛称について

・

8. その他

・